



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4498 号 2018.7.20 発行

秋葉原でインターンシップフェア 福祉業界へ大学生よびこむ



福祉新聞 2018年07月19日 編集部
約250人の学生でにぎわった

福祉業界への就職を目指す大学2・3年生を対象にしたインターンシップフェア「フクシゴトフェス」が1日、東京・秋葉原で開かれた。福祉事業所のブースのほか、さまざまな体験コーナーも設けられ約250人が訪れた。一般社団法人FACE to FUKUSHIの主催。

主催者は福祉人材の発掘や採用、育成を行う団体で、今回のようなインターンシップフェアを開いたのは2回目。代表は社会福祉法人ゆうゆうの大原裕介理事長と、NPO法人み・らいずの河内崇典代表理事が務めている。

河内共同代表は、「たまたま実習先の福祉施設とそりが合わなかっただけで、一般企業の方へ入社する学生は少ない。だからこそ、先入観のないうちに、良い実践をしている福祉現場の話を聞く意味は大きい」と指摘する。

今回出展したのは、関東の社会福祉法人など21団体。中には北海道や新潟、京都などの法人もあった。会場はより多くの団体の話が聞けるよう法人ごとの仕切りを撤廃。ブースには若手職員が立つことで、より大学生に職場の雰囲気や伝わるような工夫をしていた。

また、今回はインターンシップの募集はないが厚生労働省や法務省、全国社会福祉協議会もブースを出展。全社協の担当者は「福祉人材不足解消に向け、イメージアップに協力したい。また、社協の良さもアピールできれば」と話していた。

会場内にはVR（バーチャルリアリティ）を活用した認知症体験や、パラスポーツ体験、障害者アート展示などさまざまなコーナーも設けられた。

将来、障害分野での就職を考えているという淑徳大3年の女子学生は「想像以上に気さくな職員ばかりでびっくり。本音の話が聞けるのでとても面白く、既に4ブース回りました」と話していた。

福祉の視点を農業に - 障害者雇用 取り組みを紹介/高取・農福連携推進セミナー



奈良新聞 2018年7月19日

基調講演をする鈴木さん=18日、高取町観覚寺のリベルテホール
福祉分野の障害者の就労と、農業分野の担い手不足をマッチングする「農福連携」推進セミナーが18日、高取町観覚寺のリベルテホールで開かれ、約80人が参加した。

同町ワークシェアリング地域づくり協議会(明見美代子会長)が主催。同会は昨年4月、町内の農業者や農業団体、行政、福祉事業所、自治会などが農福連携の実現を目指して設立した。

「障害者の兄」隠し続けた妹の葛藤、披露宴で出した答え 山内深紗子

朝日新聞 2018年7月19日



実家の居間でくつろぐ久保田優里さん(右)と兄の植松暖人さん(中央)、弟の洸志さん=大津市久保田優里さん(右)と植松暖人さん



重い障害のある入所者19人の命が奪われた「やまゆり園事件」から間もなく2年。「障害者是不幸を作ることしかできない」。命を選別する植

松聖(さとし)被告の言葉は、社会に暗い衝撃を与えた。命の価値とはなにか。障害者の「きょうだい」として生きる人の目を通して考えてみたい。

あの事件の後、警察は被害者を匿名で発表した。遺族の強い希望という理由だった。

滋賀県の養護学校教諭、久保田優里(ゆり)さん(28)は匿名公表に胸が苦しくなった。兄の植松暖人(あつひと)さん(30)は脳性まひで重い知的・身体障害がある。偶然、旧姓が被告と同じだったことも嫌だった。

「障害のある人の死を数でしか語れない社会への違和感。一方で、家族が名を明かせない気持ちもわかるから、しんどかった」

兄を特別視せず隠すこともなかった両親のもとで育ち、幼い頃は兄の「障害」を意識しなかったことがなかった。強く認識したのは9歳の時だ。

休日の午後、兄と留守番をした。「ほんまは話せるけど、実は隠してるだけなんやろ?」。兄にそう耳打ちし、部屋を出て様子をうかがった。「うーっ」。30分間。待っても兄は話さなかった。よだれが兄の首をつたった。

学校で同級生が不器用な友人を「お前、障害児か。何にもできん」とからかっていたことが頭に浮かんた。胸をつかれた。

中学生になると、友人に兄の存在を隠すようになった。好きになった人にも言えなかった。

ごみ出し1回140円 高齢者や障害者の負担軽減へ仙台市が奨励金

河北新報 2018年7月19日

自力でのごみ出しが難しい高齢者や障害者の負担を減らすため、仙台市は10月からごみ出しを手助けする町内会や老人クラブなどの団体に奨励金を交付する。高齢化が急速に進む中、地域での継続的な支え合い活動を促進する。

住宅の玄関から集積所までごみを運んだ場合に奨励金を出し、1世帯のごみ出し支援1回に140円を交付する。ごみは家庭ごみ、プラスチック製容器包装、缶・びん・ペットボトル類、紙類の4種類。

交付対象は町内会やボランティア団体、NPO法人など非営利活動の団体。1団体の上限交付額は本年度下半期で4万8000円とした。8～9月に説明会を開き、実施団体の事前登録や問い合わせの受け付けを始める。

ごみ出し支援を受けられるのは、要介護1～5の認定を受けたり、身体障害者手帳1～6級の交付を受けたりしている人。単身世帯か、支援対象者のみで構成する世帯が対象となる。今後、市の広報誌などで申し込み方法を周知する。

市家庭ごみ減量課の担当者は「超高齢化社会を迎える中、ごみ出しという誰もが参加できる支援を通じて、地域の支え合いの輪が広がることを期待したい」と説明した。

児童福祉司1000人増へ…5歳女児虐待死を受け、政府が再発防止策

読売新聞 2018年7月19日

東京都目黒区で今年3月、虐待を受けた船戸 結愛 ちゃん（当時5歳）が死亡した事件を受け、政府が、全国の児童相談所（児相）で虐待対応にあたる児童福祉司を、計1000人以上増員することなどを柱とする再発防止策をまとめたことがわかった。虐待児童の転居時には、児相の職員同士が対面で引き継ぎを行い、情報共有を進めることなども盛り込まれるとみられる。20日に予定されている関係閣僚会議で正式決定する。結愛ちゃんは香川県の児相に2度にわたり一時保護され、その後、東京都内に転居していた。厚生労働省などの検証では、香川と東京の児相間で情報共有が不十分だったなどと指摘されている。

厚労相が横浜の児童相談所視察 機能分化の在り方議論へ 共同通信 2018年7月19日 横浜市中央児童相談所の視察を終え、記者の質問に答える加藤厚労相＝19日午前



加藤勝信厚生労働相は19日、児童虐待の対応現場の実情を把握するため、横浜市中央児童相談所（同市南区）を視察した。

同児相では、虐待の初期対応を担うチームと、その後の子どもの生活環境を支援する担当を分けており、加藤氏は、この取り組みについて職員からヒアリング。一時保護所内にある、生活空間や学習スペースも訪れ、遊んでいる子どもたちの様子も視察した。

加藤氏は視察後、取材に応じ「職員から、さらなる体制強化が必要だと聞いた。（家庭への）支援と介入の機能分化も含め、児相の在り方について議論をスタートしたい」と述べた。

「医療ケア児」保育所に…看護師が常駐、たん吸引…福岡市がモデル事業開始

読売新聞 2018年7月19日

福岡市は、保護者の就労支援などを目的に医療的ケア児を受け入れるモデル事業を市立千代保育所（博多区）で始めた。ただ、普及に向けては対応できる看護師や保育士の確保が課題となっている。

「せきをしてみようか」。同保育所で今月上旬、看護師の石峯佐知子さん（45）が昼寝から目を覚ました男児（2）を優しく促した。のどに装着した呼吸補助具からたんを吸引すると、「上手に出せたね」と笑顔で声をかけた。

男児は気管の一部が狭い「声門下 狭窄 症」と診断され、呼吸補助具を装着している。たんが詰まると呼吸困難になる恐れもあることから、起床時や食事の前後などに吸引をする必要がある。

母親（32）は就職のために預け先を探したが、「前例がない」などの理由で約40施設に断られた。モデル事業を利用して、ようやくパートの仕事に就くことができ、「ほっとしています」と表情を和らげた。

モデル事業は、ケア児の支援を自治体の努力義務とした2016年の児童福祉法改正などを受けて開始。他の認可保育所と同じ保育料で1日8時間、週6日間受け入れ、新たに採用した看護師2人が交代でケアに当たる。今年度、市立保育所7か所のうち保育室が比較的広い千代保育所で実施、3人の利用を想定している。

厚生労働省によると、ケア児は全国で約1万7000人（2015年度、19歳以下）と推計される。だが、未就学児を対象に、都道府県や政令市などで実施した16年度の調査では、保育施設での受け入れは292か所、計323人だった。

福岡市は6月現在、未就学のケア児を102人と推計しているが、モデル事業利用者は

男児1人だけ。私立施設での受け入れも1か所、1人で、ケア児受け入れに対する認知度の低さなどが背景にあるとみている。

普及に向けては、ケアを担う人材の確保が急務となっている。市は看護師の配置だけでなく、都道府県が認定する研修や講座を受ければケアができるようになる保育士に受講を勧めていく予定だ。だが、費用は原則、施設や個人の負担。加えて、市の担当者は「保育士そのものが人手不足。講座、研修に割り当てる余裕がないのが実情」と明かす。

市はモデル事業を通じて年度内に安全対策の手引をまとめる。今後、市立施設での拡大を図り、私立にも受け入れの必要性を呼びかけ、支援策を検討していく。

名桜大の松下聖子教授（小児看護）は「受け皿整備に時間がかかれば、就労できない親の経済的な負担感も大きくなる。行政はニーズを把握し、民間を対象にした補助制度を整備することが必要だ」と指摘する。

【医療的ケア児】 先天的な病気などにより、たんの吸引や管を通じた栄養補給といった日常的な医療支援が必要な子ども。医療の進歩で以前は救えなかった子どもが助かるようになったことを背景に、厚生労働省の推計では、2005年度の9403人から10年間で1・8倍に増えた。

先進自治体で手厚い支援…人件費補助、拠点設置も

医療的ケア児に対し、全国では手厚い支援態勢を整える自治体もある。

保育施設での受け入れが14人の堺市では、公立1施設につき看護師らが最大3人で対応、保育時間も延長している。また看護師らの人件費を補助し、私立の保育施設も活用できるようにしている。川崎市は七つの区ごとに、受け入れ拠点保育所を設置。衛生面を考慮し、ケア児専用のスペースをつくって対応している。

厚労省は「対応する自治体が少しずつ増える一方、受け入れの必要性への認識がまだ広がっていない。国にも看護師配置に対する補助メニューがある。これらを示しながら周知を図っていきたい」としている。

都の福祉ファンド、大田区の複合施設に投資

日本経済新聞 2018年7月18日

東京都は官民連携のファンドを通じて、大田区内で新設する認可保育所と賃貸マンションを一体にした複合施設に投資した。約7億円の総事業費のうち、ファンドが半額程度を拠出した。民間資金を活用して保育のインフラを整備し、子育て世代の支援につなげる。



子育て世代の支援につなげる（完成イメージ）

投資先は大田区千鳥に立地する延べ床面積約880平方メートル、地上6階建ての施設。建物は2019年1月に完成し、定員54人の認可保育所を同4月に開設する予定だ。子育て世代向けの賃貸マンションは同2月にも入居が始まる。

都は「官民連携福祉貢献インフラファンド」を、民間2社と組んで事業化している。総額25億3000万円のファンド資金のうち、都は12億5000万円を出資する。大田区の案件に投資したファンドはスターツアセットマネジメント（東京・中央）が運営する。

都はこれまでも福祉ファンドにより、保育所と住宅の複合施設のほか、有料老人ホームと保育所を一体にした施設を整備してきた。

「共助」の力、災害時こそ 大阪北部地震1か月

読売新聞 2018年07月19日

◇慣れぬ作業「つながり」が救う

府北部を最大震度6弱の揺れが襲った地震は18日、発生から1か月を迎えた。北摂地域の被災地では、地震直後から民間団体や自治会が被災者支援に走った。自治体が混乱す

るなか、近年、重要性が指摘される、地域が支え合う「共助」の力が発揮されていた。(畑本明義、小坂田基)

地震の翌日に食料や水を配りながら被災者の安否を確認するボランティアら(高槻市で) =WAKWAK提供

■見えた情報格差

一般社団法人「タウンスペースWAKWAK(わくわく)」は、高槻市西部の富田地区で独居高齢者や障害者、子育て家庭の支援に取り組む民間団体だ。

地震発生翌日の6月19日、支援物資として届いた食料や水を、これまで支援してきた150世帯に配りながら、安否確認を進めた。こうした活動で見えてきたのが「情報格差」だった。

特に、高齢世帯では「防災無線が聞こえなかった」「インターネットが使えないから、役所が出す情報が手に入らない」といった、困惑の声が聞かれた。

ガスが復旧したことを知らず、復旧してもどうすれば使えるようになるのかわからない世帯もあり、ボランティアの人たちが開栓の操作を手伝った。

聴覚障害者の夫婦は、市の緊急放送が聞こえない不安を抱え、近所の親族宅に身を寄せていた。雨漏りするアパートから避難できずにいた独り暮らしの高齢女性も見つかり、民生児童委員が避難所に案内した。

災害が起きれば、ふだん接することのない罹災証明の申請やボランティアの依頼、応急危険度判定結果の理解など、慣れない作業に直面する。代表理事の岡本茂さん(68)は「被災後、地域住民がほんとうに困っていることは何なのかは、日頃から時間をかけて関係を築いていないと気づきにくい」と話す。

■自治会が被害把握

高槻市南部、唐崎自治会の籠野寛会長(67)は、激しい揺れに襲われた時、地域の資源ゴミ回収の準備をしていた。「ドーン」という衝撃を感じ、近くの家で屋根瓦がずれていくのが見えた。

自宅にノートとペンを取りに戻って地域を回り、午前中に約100棟で屋根瓦がずれているのを確認した。午後からは、自治会が持つスピーカー付きトラックで「ブルーシートを配布します」と報じて回り、屋内の片づけをして生活空間を確保するよう呼びかけた。

ブルーシートや土のうは自治会が代表して受け取り、災害ゴミも地区内で集積し、まとめて回収できるよう段取りをした。屋根にブルーシートを張るボランティアも独自に確保し、毎日トラックでこうした情報を伝えて回った。6月中に約600世帯のうち130世帯でブルーシートを張り終え、家屋内の整理は自治会役員やボランティアが手伝った。

地区住民の多くが70歳以上。籠野さんは「自治会が動けば、すぐに話もできる。こんな時に助け合うためにこそ自治会がある。今回、少しは組織が存在する意味を示せたと思う」と話す。

■新たに見守り登録

豊中市社会福祉協議会(市社協)は地震後、民生委員と連携して、見守りの対象になる高齢者を増やす取り組みを進めている。

市には、独り暮らしの65歳以上が希望すれば、民生委員が定期的に訪問して生活の相談にのる制度があり、約6000人が登録済みだ。取り組みでは、未登録の世帯を民生委員が個別に訪問し、家具の転倒を防ぐ「突っ張り棒」を無償提供して設置するとともに、制度への登録を勧める。これまでに、新たに約100人が加入したという。地震の前は「個人情報知られる」と敬遠した人でも、「安心できる」と受け入れる例が多いという。

市内で独り暮らしする高齢者の総数は約3万4000人で、見守りが必要な人は相当数いる。市社協の勝部麗子福祉推進室長は「新たなつながりを作り、次の災害に備えたい」と話す。



「だれでもトイレ」に健常者 必要な人にしわ寄せも オストメイト、LGBT などに対象広がったが… 日本経済新聞 2018年7月19日

ハンディを持つ人が使う多機能トイレの利用方法が混乱している。車いす利用者向けに広がったが、その後、高齢者や乳幼児連れなどにも拡大しているためだ。「だれでも」「みんなの」など名称が曖昧で、健常者の利用が減らないことも混乱に拍車を掛ける。2020年の東京五輪・パラリンピックを前に整備が進む「だれでもトイレ」、一体誰のものなのだろう。

■あなたがなぜ？見かけで判断できず

東京・浅草の商業ビルでこんな光景に出くわした。「もう20分も待っているんだけど」と漏らす車いすの男性。目の前の多機能トイレには車いすのほか、高齢者、オストメイト（人工肛門利用者）、ベビーカーなどの図記号（ピクトグラム）が並んでいる。

催促のノックから5分、ようやくドアが開いた。出てきたのは30代とおぼしき女性。待ちくたびた男性に言葉もかけず、足早に立ち去った。

自らも電動車いすを使う東京バリアフリー協議会（東京・江東）の齋藤修理事長は「健常者が使っていて、待たされることはしょっちゅう」と憤慨する。では浅草のトイレを占拠していた女性は非難されるべきなのだろうか。見かけで判断するのは早計だ。

「オストメイトは外見では健常者と区別しにくい。多機能トイレから出てきたところを非難の目で見られ不愉快な思いをする仲間も多い」と日本オストミー協会（東京・葛飾）の谷口良雄会長は話す。

オストメイトは人工肛門からの排せつ物を受ける袋を衣類の下に付けているが、外からは見えない。装具の洗浄設備があるトイレが増えたとはいえ、「そもそもの認知度が低く、誤解は減っていない」（谷口会長）。

■密室ゆえに疑心暗鬼の不満たまる

障害者用トイレの本格整備が始まったのは1994年のハートビル法にさかのぼる。回転に広さが必要な車いす専用が先行。2000年の交通バリアフリー法以降は「オストメイト、乳幼児連れなどに対応する多機能なトイレを目指すようになった」とバリアフリー設計に詳しい高橋儀平・東洋大学教授は解説する。

最新の多機能トイレにはオストメイト設備や介護用の折り畳みベッド、ベビーチェアなど盛りだくさんだ。最近では車いすの高齢者を家族が介助するなど、「異性同士で使う男女共用の機能も加わってきた」（同）。男女共用が多いので、性的少数者（LGBT）が使うこともある。

現場の混乱は、多様な利用者を一手に引き受けた結果でもある。追加導入された装置が邪魔になり「本来の車いす利用者が使いづらくなった」（齋藤理事長）との声も。

さらには緊急でない健常者まで加われば、利用がかち合う。電車の優先席と違い、個室のトイレは外から見えないだけに、疑心暗鬼の不満が鬱積しがちだ。

■「優先」「専用」と呼ばない理由

混乱を減らす狙いもあり、国土交通省は17年3月末、建築物の設計標準を改訂。機能の1カ所集約ではなく、複数カ所で分担する機能分散を打ち出した。ただ設計標準はあくまで目安。実際に分散化が定着するには時間がかかる。

名称の曖昧さも背景にある。自由に使えるような誤解を与えかねないからだ。

「だれでもトイレ」という名前が登場したのは00年。東京都が福祉のまちづくり条例の関連規定で使ったのが最初とされる。その後「みんなの」「多目的」など、似たような呼び方が広がった。

ただし、この「だれでも」、「通常のトイレ利用が難しい人は『だれでも』（都福祉保健局）を意味している。緊急時などを除き健常者は原則対象外。では名称を変えればとの指摘があるが、簡単にはできない事情がある。

『専用』や『優先』と呼ぶと、使っていい人いけない人を線引きしてしまう。分け隔てない社会を目指すユニバーサルやバリアフリーの考え方と相入れない」と都内自治体の担当者は打ち明ける。「特別扱いされるのはいや」という障害者の声もあり、名称変更にも二の足を踏む。

多機能トイレの整備が進み、障害やハンディキャップのある人でも外出しやすい社会が実現しつつある。一方で、公共のトイレをどう使えばいいのか、社会の「トイレリテラシー」も問われている。

■マークの分かりにくさで誤解も

よく見かける車いすのマーク。車いす専用と思いがちだがそうではない。障害を持つ人が広く利用できる施設を示す。制定は50年前、世界共通だが「車いす専用との誤解がまだにある」（日本障害者リハビリテーション協会）。

同じ意味でも、意匠が違うケースも。交通エコロジー・モビリティ財団（東京・千代田）の調査では「おむつ交換台」のデザインは20種類もあった。同財団は多目的シートなど8種類について統一案を検討中で、10月にも公表する。

オストメイトのマークは昨年7月、日本工業規格（JIS）に追加されたが、日本でしか通じない。何の意味か、トイレの前で外国人が首をひねることも考えられる。（田辺省二）

【ミナミ語り場】R-1優勝の漫談家・濱田祐太郎さん「夢はミナミで売れること」

産経新聞 2018年7月19日

「ミナミは思い出の地。ここで売りたい」と話す濱田祐太郎さん＝大阪市中央区（恵守乾撮影）



若手芸人らが腕を磨く大阪ミナミの「よしもと漫才劇場」に出演するため週3、4回、大阪市内の自宅から電車通勤している。「外出は緊張の連続です。人の話し声や、ごった返す駅改札。やっぱりミナミは人が多いなあと感じます。最近は外国語の話し声が増えましたね」白杖を手に駅から、点字ブロックやパチンコホールなどから漏れる電子音、店の呼び込みの声などを頼りに劇場まで、無事ひとりですとどり着くと安堵（あんど）する。

今年3月、ピン芸人日本一を決める「R-1ぐらんぷり」で優勝した漫談家の濱田祐太郎さん（28）は、約3万人に1人の割合で発症する先天性緑内障。左目はまったく見えず、右目も明暗を感じる程度だ。

小学6年のとき、テレビでビッキーズとハリガネロック（いずれも解散）のしゃべくり漫才を聞いて、「世の中にこんなおもしろいものがあるんや」とはまり、中学のころに芸人になる決意を固めた。

中学卒業後は視覚特別支援学校に進み、はり・きゅうなどの国家資格を取得。マッサージなどのアルバイトで資金約40万円をためてミナミにある芸人養成所「吉本総合芸能学院（NSC）」の大阪校に入学し、翌年デビューにこぎつけた。

「吉本に入ってから目えどころか、自分の将来も見えなくなりましてね」

「盲学校の生徒って、全員目悪いんです。教室に黒板あったんです。いや、見えへんて！」

得意とするのは、支援学校時代や視覚障害者としての実体験に基づく自虐ネタ。演芸評論家からは「健常者と障害者の意識のズレを明るく笑いに変えた」と絶賛されたが、「そう評価されることはありがたいですが、自分がおもしろいと思っていることをやっているだけ。たまたま目が不自由な者が芸人になっただけです」と気負いはない。

ただ、視覚障害を扱うデリケートなネタだけに、笑っていいのか戸惑う観客には「迷ったら笑っててくださいよ」と付け加えることも忘れない。

R-1優勝後はテレビの出演依頼が殺到している。「さんまのまんま」をはじめ、「ワイドナショー」「水曜日のダウンタウン」「おかべろ」などのバラエティー番組に相次いで登

場。顔も知られるようになり、劇場の行き帰りには声を掛けられることが多くなった。

「R-1 優勝後は本当に忙しくさせてもらってます。とくにミナミではよく声を掛けられます。時間があるときには一緒に写真を撮ったりするんですが、撮影が終わったら『終わった』と言ってほしい。ずっと、ひとりでピースサインしていることもあるんですから…」と新ネタで笑わせる。当面の目標は、お笑いの殿堂「なんばグランド花月 (NGK)」の本公演で観客を沸かせることだ。「ミナミは、NSC時代から思い出の地。理想をいったらきりがありませんが、やっぱり、ここで売りたいと思っています」。実現への道は一步ずつ近づいている。(森康成)

【プロフィール】濱田祐太郎 (はまだ・ゆうたろう) 平成元年、神戸市生まれ。兵庫県立視覚特別支援学校卒業。24年、吉本総合芸能学院大阪校に入学。翌年、漫談家としてデビューを果たした。29年10月、「NHK新人お笑い大賞」で決勝大会に進出。今年3月には、「R-1 ぐらんぷり」でNSC同期の「ゆりやんレトリィバァ」らを下して優勝した。

今週のグッド・ドクター 女子高生が緊急出産 山崎賢人が小さな命を救う

毎日新聞 2018年7月19日

「グッド・ドクター」第2話のワンシーン=フジテレビ提供



俳優の山崎賢人さん主演の連続ドラマ「グッド・ドクター」(フジテレビ系、木曜午後10時)の第2話が19日放送される。第2話のサブタイトルは「女子高生が緊急出産! 小さな命を救え」。新堂湊(山崎さん)は問題を起こしながらも東郷記念病院小児外科でレジデント(研修医)として働くことになった。そんな中、病院に、学校で

破水した女子高生の菅原唯菜(山田杏奈さん)が救急搬送されてくる……というストーリー。

瀬戸夏美(上野樹里さん)は、カンファレンスで唯菜の緊急出産を報告。赤ん坊は低出生体重児で、腸のほとんどが壊死状態の壊死性腸炎が認められると続けた。しかも、唯菜はこれまで検診を受けたことがない未受診妊婦だった。病院の廊下で雑用をしていた湊は歩いていた唯菜を見つける。唯菜はNICU(新生児集中治療室)で保育器に入れられたわが子にしきりに謝罪していた。湊は、唯菜に、このままだと赤ん坊は死んでしまう可能性があるが、「助かる方法がある」と言ってしまう。

湊が高山誠司(藤木直人さん)の手術なら助かると言ったという唯菜の言葉を聞いた夏美は驚く。夏美からの報告を受けた高山は湊をきつく叱る。高い術中死の可能性が伴う手術はせずに、温存治療で赤ん坊の回復を待つという医局の方針に反していたからだ。湊は、夏美からも唯菜の病室やNICUには行くなと言われてしまった。

子供を助けたい一心の唯菜は、夏美に手術をしてほしいと食い下がるが、未成年のため、手術をするのに保護者の同意書が必要だと諭される。そこへ、唯菜の母の真紀(黒沢あすかさん)が来るが、唯菜の妊娠と出産を責め、手術の同意書のサインを拒否する。夏美に叱られながらもNICUに通っていた湊は、赤ん坊の診断画像からあることに気づく。

ドラマは、2013年に韓国で放送された同名の連続ドラマが原作で、米国でもドラマ化された。自閉症スペクトラム障害でコミュニケーション能力に問題を抱える一方、驚異的な記憶力を持つサヴァン症候群の青年・新堂湊(山崎さん)が小児外科の世界に飛び込み、周りからの偏見や反発にさらされながらも、子供たちの命のために闘い、心に寄り添い、成長していく姿を描いている。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

